

開会式

日時：令和3年1月28日（木） 8:45～9:00

会場：A会場 webinar-A

基調講演

大学病院の運営について

日時：令和3年1月29日（金） 9:00～10:00

会場：A会場 webinar-A

座長：安岡 浩憲（福井大学 病院部）

演者：石丸 成人（文部科学省 高等教育局 医学教育課 大学病院支援室長）

A-1 病院情報システムセッション

システムトラブルの経験から学ぶ

日時：令和3年1月28日（木） 9:00～10:30

会場：A会場 webinar-A

オーガナイザー：菊田 健一郎（福井大学医学部附属病院 医療情報部）

オーガナイザー・座長：山下 芳範（福井大学医学部附属病院 医療情報部）

医療情報システムは、巨大な複数のシステムの組み合わせとなっており、システム連携も複雑化している。情報システムは、機器の集合体であるので、トラブルをゼロにはならない。とはいえ、大規模なシステムとしては、障害に対する考慮として冗長化などの対応を行うことが標準的な対応方法となっているが、複雑なシステムの組み合わせである現状の構成の中では、ちょっとした盲点も出てくる。コストベネフィットという観点からも、全ての要素を多重化することや想定される全ての可能性への対応は難しく、技術面だけではなく運用面での配慮も重要となっている。本連絡会議の目的の中にも、医療情報システムに関する情報を共有することで、より良いシステムを構築することがあった。本セッションでは、この情報共有として、ICTが大きく進化し容易に冗長化などの対策が実現される中であっても、落とし穴になりがちな部分からのトラブル事例を共有し、肥大化するシステム構築での対応を円滑に行うための情報を議論する。

1. 過去のウィルス侵入の経験から学ぶ

鈴木 隆弘（千葉大学医学部附属病院 企画情報部）

2. DNS サーバの障害により電子カルテシステムが利用不能になった事例

真鍋 史朗（大阪大学医学部附属病院 医療情報部）

3. 当院における部門システムハードウェアトラブルと、業務継続を主眼とした対応と現状について
神田橋 忠（九州大学病院 メディカル・インフォメーションセンター）
4. インフラ周りでのトラブル事例を考える
～仮想化してもインフラ関連のトラブルは考慮すべし～
山下 芳範（福井大学医学部附属病院 医療情報部）

A-2 部長会セッション

「Gemini プロジェクト」の今後の利活用について

日時：令和3年1月28日（木） 10:50～12:20

会場：A会場 webinar-A

オーガナイザー・座長：宇宿 功市郎（熊本大学病院 医療情報経営企画部）

座長：下村 剛（大分大学医学部附属病院 医療情報部）

「Gemini プロジェクト」は令和2年に更新され、新たな機能を持つこととなりました。このプロジェクトの現状と新たな機能を広く知っていただき、平時に何ができ、何を準備することで実際の災害時に利活用できるかについて討論を深めたい。

1. Gemini の現状と新機能、平時の運用
土井 俊祐（東京大学医学部附属病院 企画情報運営部）
2. 災害時の Gemini 運用と平時からの準備
下村 剛（大分大学医学部附属病院 医療情報部）

A-3 情報交換会セッション

BD/AI/IoT 時代の医療情報システムを考える

—これからの方向性とコストベネフィットも考慮して—

日時：令和3年1月28日（木） 13:30～16:00

会場：A会場 webinar-A

オーガナイザー：菊田 健一郎（福井大学医学部附属病院 医療情報部）

オーガナイザー・座長：山下 芳範（福井大学医学部附属病院 医療情報部）

このセッションは、本会議にて恒例で開催されてきた医療情報システムの複数ベンダーからの情報の提供をいただくセッションとなります。

今回は、医療情報システムが非常に大きくなり、部門システムとともに複雑に関連するシステムが当たり前になり、本大会のテーマでもある医療情報システムのコストの問題も議論に上がるようになってきた。

医療情報システムの核となっている電子カルテに関しても機能拡大や部門システムの連携といったことからコストベネフィットを考慮する必要もある。

さらに、システム連携が増える中での対応や BD に代表されるデータ活用への方向性における標準化対応なども課題であり、AI や IoT という流れもあわせたこれからの医療情報システムの在り方も考える必要がある。

このような課題に対して、電子カルテを提供するベンダーがどのような取り組みを行って、これから役割とコストベネフィットが考えられかという点も含めて、現状の取り組みから課題解決・新しいアプローチ等について発表をいただき、これからの医療情報システムの議論を行う。

情報提供予定の電子カルテベンダー

富士通、NEC、IBM、キヤノンメディカルシステムズ

A-4 病院バーチャルツアー（情報交換）

福井大学医学部附属病院の医療情報システムの概要

日時：令和3年1月28日（木） 17:00～18:00

会場：A会場 webinar-A

オーガナイザー：菊田 健一郎（福井大学医学部附属病院 医療情報部）

オーガナイザー・座長：山下 芳範（福井大学医学部附属病院 医療情報部）

演者：山下 芳範（福井大学医学部附属病院 医療情報部）

本連絡会議は、今回初めてWEB開催となったため、これまで会議開催時に実施されていた病院情報システム等の見学会が実施できなくなった。このため、Webinar を利用したバーチャルツアーとして実施する。

福井大学病院では、15年前より医療情報システムの仮想化を開始し、現在では電子カルテだけでなく、部門システムやクライアントの仮想化も行い、全面的な仮想化によるクラウドシステムとなっている。また、2021年からは、これまでの病院内のプライベートクラウドでの運用から、外部でのクラウド運用にシフトする予定である。どのような流れで仮想化し、プライベートクラウドとなり、外部クラウドへの転換となるかを紹介する。また、この仮想化による効果や実際の電子カルテや部門システム構成や動きについても実際の動きを配信する予定である。さらに、本院が取り組んできている、情報インフラやIoT等の活用や医療情報システムの仮想化に伴っての運用変革などについても概要の説明とともに、映像にて紹介を行う。

B-1 臨床研究・治験セッション

DX時代の臨床データの活用とは

ー臨床データ活用におけるコストベネフィットー

日時：令和3年1月28日（木） 9:00～10:30

会場：B会場 webinar-B

オーガナイザー・座長：武藤 学（京都大学大学院医学研究科 腫瘍薬物治療学講座）

オーガナイザー・座長：中本 安成（福井大学医学部附属病院 消化器内科）

臨床研究や治験においても、医療情報システムからのデータ活用は非常に重要な要素になっている。特に、臨床データ活用としても ICT 環境が大きく変化しており、ビッグデータとして大規模データによる臨床研究や医療向けの AI(人工知能)のための基礎データといった方向が求められている。

医療情報は、臨床研究や治験を進めるうえでも重要な位置づけになっており、今回の会議のテーマである「医療情報システムのコストベネフィットとは」を考える上でも、これからの応用を考えることは非常に価値のあることであり、また、医療全体に与えるインパクトからのコストベネフィットも考えるべき内容である。本セッションでは、これからの臨床研究等で求められる方向性や情報活用について議論する。

1. Cyber Oncology を基軸にしたリアルワールドデータ

武藤 学（京都大学大学院医学研究科 腫瘍薬物治療学講座）

2. Open Science 推進のための医療情報基盤について

泉田 欣彦（埼玉医科大学総合医療センター 内分泌・糖尿病内科／日本医療研究開発機構（AMED）科学技術調査員）

3. Deep Learning を用いた胸部単純 X 線画像における解剖構造異常検知について

田中 雅人（福井大学医学部附属教育支援センター）

4. 臨床実習への ICT 導入による教育の質と効率の向上を目指して

羽根田 洋（福井大学医学部附属教育支援センター）

B-2 病院マネジメント（事務）セッション

ICT を利用した業務効率化

～情報の利活用、業務改善への最新の取り組み～

日時：令和3年1月29日（金） 10:30～13:00

会場：B会場 webinar-B

座長：安岡 浩憲（福井大学 病院部）

診療報酬のマイナス改定や消費税増税など、医療を取り巻く環境が大きく変化する中、業務効率を向上させるには IT の利活用が必須となっています。近年、ICT の発達により各大学でも病院経営を支えるために様々なシステムやツールを導入し、業務改善や働き方改革がなされているところ

今回の事務セッションでは、DWHの活用や最近話題のRPA活用事例など、大学病院の特色ある最新の取り組みについて、ご紹介いただきます。

1. 信州大学医学部附属病院におけるDXに向けた取り組み
～RPAから始めるDXとcovid-19への対応～
白木 康浩（信州大学医学部附属病院 経営管理課）
2. RPAによる業務改善を目指して ～薬剤部・看護部と共に～
吉野 孝博（滋賀医科大学 医務課）
3. RPAの導入に向けた取組について ～RPAを広く浸透させるために～
小林 誠巳（福井大学 病院部 総務課）
4. 「HOMAS2 限界利益ツール」とDPCデータを用いた医療費削減改善策提案のためのベンチマーク
分析手法の検討
後藤 理香（熊本大学病院 病院事務部 経営戦略課 経営戦略担当）
5. 経営的視点による診療科分析〔産科婦人科〕
—「DPC入院期間Ⅱを意識した病棟運営」と「MFICU算定率向上の可能性」—
吉田 一基（徳島大学病院 経営企画課経営企画係）
6. 病棟削減のための評価方法確立 ～HOMAS2活用による大学病院視点の評価指標について～
本間 健太郎（京都大学医学部附属病院 経営管理課）

C-1 地域連携・COVID-19 セッション

日時：令和3年1月28日（木） 9:00～11:00

会場：C会場 webinar-C

オーガナイザー：岩野 正之（福井大学医学部附属病院 腎臓内科）

オーガナイザー・座長：松本 武浩（長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 医療情報学分野）

オーガナイザー・座長：山村 修（福井大学 医学部 地域医療推進講座）

第1部 大学病院とCOVID-19患者の入院調整ネットワーク

2020年3月から始まったCOVID-19感染拡大の第1波により、多くの大学病院が感染患者を受け入れました。しかし多くの国立大学病院は感染症指定医療機関に指定されておらず、2類相当であるCOVID-19患者の入院は想定されていませんでした。このため感染患者の受け入れに当たり、急遽入院体制を整え、保健所を中心とした行政側とのネットワークを手探りで構築しました。指定を受けていた大学病院でも、急増する感染者を受け入れるために、ネットワークの拡充を余儀なくされました。本セッションでは国立大学病院とCOVID-19入院調整ネットワークがどのように形成されていったのか、その過程をテーマとし、問題点と今後の課題を提示します。

1. 災害時の行政と医療機関との連携には‘HUB’が必要である
～浜松市における新型コロナウイルス感染症クラスター対応の経験から～
高橋 善明（浜松医科大学医学部附属病院 救急部）
2. COVID-19 第1波における福井県の危機的医療提供体制を振り返る
岩崎 博道（福井大学医学部附属病院 医療環境制御センター 感染制御部）
3. 長崎県内の COVID-19 患者の入院調整と感染症指定医療機関である長崎大学の役割
泉川 公一（長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 臨床感染症学分野／長崎大学病院 感染制御教育センター）

第2部 COVID-19 と地域連携ネットワーク

COVID-19 感染拡大は、大学病院のみならず、連携する関連病院でも大きな影響があり、これからの地域連携ネットワークについて考慮すべき点も多くでてきた。今回の感染者受け入れ対応について、大学病院以外でも非常に多くの苦労や工夫がなされてきている。実際の状況を踏まえて、地域での連携も考慮することが必要と考えられるので、実際に対応を行った病院からの状況を報告いただき、今後の課題の提示としたい。

4. 中規模病院における遠隔診療システム導入の検討の事例報告
青木 陽介（大船中央病院 放射線科）
5. 後方連携施設と当院における WEB ケアカンファレンスの取り組み
～WEB ケアカンファレンスに求められる成果～
奥村 幸光（名古屋掖済会病院 情報管理センター）
6. COVID-19 への対応について ～ICT を活用した接触低減の取り組み～
櫃石 秀信（松波総合病院 経営企画部）

C-2 放射線・医用画像管理セッション

画像診断レポートの未読既読管理の現状

日時：令和3年1月28日（木） 15:40～17:10

会場：C会場 webinar-C

座長：小坂 信之（福井大学医学部附属病院 放射線科）

診断レポートの未読既読管理は、大病院ではある程度対策は済んでいると思われます。実際に運用してみてどうだったか、成果があったのか導入結果に焦点を絞ったセッションとなります。

1. 医療安全向上に資する電子カルテの機能と運用
～画像診断レポートの見落とし防止に向けて～

武田 理宏 (大阪大学大学院医学系研究科 医療情報学)

2. 未読・既読管理システムの運用 (医療安全の立場から)

滝沢 牧子 (群馬大学医学部附属病院 医療の質・安全管理部)

3. 画像診断レポート未読既読管理のシステム化から得られたこと ～読影する立場側から～

横田 元 (千葉大学大学院医学研究院 画像診断・放射線腫瘍学)

C-3 診療情報管理セッション

新型コロナウイルス対応の診療情報 (管理) について

日時: 令和3年1月29日 (金) 10:30~12:00

会場: C会場 webinar-C

オーガナイザー・座長: 今泉 浩徳 (名古屋市立大学病院 医療安全管理室)

オーガナイザー・座長: 井上 麻里子 (福井大学医学部附属病院 診療情報管理部)

コロナ禍における診療情報・診療情報管理は、今までの診療対応と異なり COVID-19 陽性患者同意書の保管取扱いなど、新たな対応を迫られている。各大学病院の現状と取り組みについて、情報共有・意見交換を行う。

1. 新型コロナウイルス感染症と診療情報管理に関するアンケート結果

藤井 歩美 (大阪大学医学部附属病院 医事課 診療情報管理係・医療情報部)

2. 当院における新型コロナウイルス感染症と診療情報管理 ～コロナ禍を契機に見えてきたこと～

山本 実佳 (東海大学医学部附属病院 診療情報管理課)

3. コロナ禍における当院の現状 ～診療情報管理士の役割とは～

根本 朱美 (東京医科大学病院 診療情報管理室)

4. 新型コロナウイルス感染症患者の受入れ経験を踏まえて ～診療情報に関する取り組み～

西山 謙 (九州大学病院 病院長特任補佐)

5. DMAT 支援について ～COVID-19 クラスタ事例で感じた課題～

加藤 真嗣 (浜松医科大学医学部附属病院 病院経営支援課 病院経営管理係)

C-4 AMED 研究事業 (JAMI・AMED) セッション

健康医療データ 2次利活用の同意に関する課題と実運用に向けて

～Dynamic Consent、次世代医療基盤法 包括同意などに関するAMED事業 (JAMI委研究事業) の中間報告～

日時: 令和3年1月29日 (金) 13:00~15:00

会場：C会場 webinar-C

オーガナイザー・座長：中島 直樹（九州大学病院 メディカル・インフォメーションセンター）

座長：山本 隆一（一般財団法人 医療情報システム開発センター）

パネラー：井上 悠輔（東京大学医科学研究所）

寺本 振透（九州大学法学研究院）

米村 滋人（東京大学大学院法学政治学研究科）

2017年度の個人情報保護法改正により、要配慮個人情報となった健康医療情報は第三者への提供には個別同意が必要となった。ただし、医学系研究に用いる場合は、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針（以下、倫理指針）」に基づいた倫理審査委員会の承認により、オプトアウトで研究実施が可能な場合もある。あるいは、匿名加工化を行うことにより当該個人情報を復元できない場合には、その第三者提供に際して個別同意やオプトアウト手続きをしないでもよくなる。次世代医療基盤法に則り、認定匿名加工医療情報作成事業者が匿名加工化する場合には「通知によるオプトアウト（上記のオプトアウトの利用拒否の機会保証を紙の通知を個人に渡すことにより行うこと）」が必要とされる。さらには、包括同意（診療の一環として取得された試料余剰分や情報を、将来実施する様々な研究に利用することを文書で同意を得ること）を実施する医療機関もみられる。このような健康医療情報の2次利用に関する同意は、特に臨床研究を推進する大学病院にとって大きな課題である。

国立研究開発法人日本医療研究開発機構（AMED）では、2015年度より日本病理学会、日本医学放射線学会など6つの画像系臨床学会によるAIによる画像診断支援に向けた研究を国立情報学研究所および複数の大学病院の協力の下、各種医用画像データを2次利用しながら推進してきた。倫理指針に則ったオプトアウトによる研究も進展し、出口戦略として企業によるAI製品の開発が期待されるが、この局面では倫理指針の範疇ではなくなるため、上記に照らせば新たに患者から個別同意を取得するか、匿名加工化などの措置をとらねば商用利用には用いることができない、という問題が生じている。この他、医学研究の範疇においても、例えば倫理指針に則り医療機関より匿名化データを取得した疾患登録データベース事業が、新たにゲノムデータを追加取得し研究事業に用いる場合には原則個別同意が必要となるが、すでに医療機関からはその個人は他医療機関へ転出している場合が多く、個別同意の取得は困難な場合が多い、という問題も発生する。近年は、新しい個別同意の取得手法として、スマートフォンのモバイル端末を登録し、電子的な動的同意取得（経時的な説明と同意／同意拒否の確認、異なる目的別の同意取得）を可能とするdynamic consentが期待されている。

本研究事業では、これらの同意取得の課題の具体的な解決を目指し、日本医療情報学会がAMED研究事業「病理診断支援のための人工知能（病理診断支援AI）開発と統合的「AI医療画像知」の創出」の分担研究者として参加し、同学会内に法制度専門家、医療医学倫理問題専門家、医療情報専門家などにより構成する研究推進WGを設置した。その上で、上記の課題の中から調査研究対象として「dynamic consent」、「通知によるオプトアウト」、「包括同意」を取り上げて、法制度面、倫理面の課題を抽出し、その課題の現実的な解決策を検討している。また、それぞれの同意取得方法に

基づく医療現場におけるデータおよび同意取得のフロー図の作成、フロー図内の解決すべき課題の抽出と解決策を検討する。本セッションでは、各演者による本事業の中間報告を行った後、法学者、および医療倫理専門家を含めたパネルディスカッションを行う。

1. 健康医療 2 次利用研究に関する課題について

森井 昌克（国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 プログラムスーパーバイザー／神戸大学大学院工学研究科 電気電子工学専攻）

2. AMED 事業による健康医療 2 次利用の同意に関連した研究事業の概要

中島 直樹（九州大学病院 メディカル・インフォメーションセンター）

3. Dynamic Consent の課題について

山本 隆一（一般財団法人 医療情報システム開発センター）

4. 次世代医療基盤法の課題について

黒田 知宏（京都大学医学部附属病院 医療情報企画部）

5. 包括同意の課題について

藤田 卓仙（慶應義塾大学 医学部）

D-1 薬剤セッション

薬剤部門における新型コロナウイルス感染症への対応

日時：令和 3 年 1 月 28 日（木） 10:50～12:20

会場：D 会場 webinar-D

オーガナイザー・座長：後藤 伸之（福井大学医学部附属病院 薬剤部）

座長：村川 公央（岡山大学病院 薬剤部）

新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) という新たな脅威に対し、医療機関は奮闘を続けている。この緊急事態の中、薬剤部門で生じた課題やその対処法について、ICT の活用など先進的な取り組みを進めている施設からご紹介いただき、今後の参考とさせていただきたい。

1. 神戸大学医学部附属病院における新型コロナウイルス感染症の院内感染防止に向けた対応

宇田 篤史（神戸大学医学部附属病院 薬剤部・感染制御部）

2. COVID-19 下における職員の感染予防に配慮した薬剤部門の運営について

安田 浩二（岐阜大学医学部附属病院 薬剤部）

3. COVID-19 下における製薬企業との情報伝達について

古俵 孝明（福井大学医学部附属病院 薬剤部）

4. 新型コロナウイルス感染症に対応した病院実務実習プログラムの実践と評価
菊地 正史（東北大学大学院薬学研究科／東北大学病院 薬剤部）

D-2 歯科セッション

医療情報、ビッグデータ、IoT、AI による歯科医療 DX

日時：令和3年1月28日（木） 13:30～15:30

会場：D会場 webinar-D

オーガナイザー・座長：野崎 一徳（大阪大学歯学部附属病院）

オーガナイザー・座長：吉村 仁志（福井大学医学部附属病院 歯科口腔外科）

歯科医療でのデジタルトランスフォーメーション（DX）は歯科界が抱えるいくつかの課題解決に有益であるという見地から、具体的なデータを取り扱う現場での情報技術活用成果を報告することにより、DX実現に繋げていく道程を明らかにする。

<Session A>

1. 歯牙硬組織情報のデジタルデータベース構築と人工知能（AI）を活用した個人識別法の確立に向けた取り組み～災害における迅速な身元確認を可能とするデジタル技術の開発～
松田 慎平（福井大学学術研究院医学系部門（附属病院部）歯科口腔外科学）
2. 医療者はAIを学ぶべきか ～触れてみれば意外と簡単なAI開発～
清野 雄多（岐阜大学 工学部 藤田研究室）
3. Deep Learningを用いた歯科領域画像診断デバイスの開発支援
領家 崇（福井大学学術研究院 医学系部門医学領域 感覚運動医学講座 歯科口腔外科学分野）
4. パノラマX線画像データの可能性
勝又 明敏（朝日大学 歯学部 口腔病態医療学講座 歯科放射線学分野）

<Session B>

5. 文書発行業務から始める歯科診療現場のDX
井田 有亮（東京大学大学院医学系研究科 課題解決型高度医療経営人材育成PG）
6. ふくいメディカルネットを利用した安心・安全な歯科医療推進への取り組み
山本 哲嗣（福井大学学術研究院 医学系部門医学領域 感覚運動医学講座 歯科口腔外科学分野）
7. 歯科口腔外科における感染管理システムを利用した抗菌薬適正使用とその医療経済効果について
吉田 寿人（福井大学学術研究院 医学系部門医学領域 感覚運動医学講座 歯科口腔外科学分野）

D-3 検査セッション

臨床検査領域における BD/AI の活用術

日時：令和3年1月28日（木） 15:40～16:50

会場：D会場 webinar-D

オーガナイザー：橋本 儀一（福井大学医学部附属病院 検査部）

オーガナイザー・座長：木村 秀樹（福井大学医学部附属病院 検査部）

根拠に基づく医療（evidence-based medicine：EBM）の臨床検査領域における実践（evidence-based Laboratory medicine：EBLM）は人工知能（AI）技術利用とビッグデータ（BD）の活用により新しい展開を見せている。臨床検査の価値を高めるためにどのようにBD/AIを活用すればいいのか、基礎研究の立場から運用に関する提案のご講演と、臨床現場での活用に挑戦している施設でのご講演を拝聴し、参加者の皆さんとともに情報を共有したいと考える。

1. 臨床検査データを用いた診断支援の試みとその課題

片岡 浩巳（川崎医療福祉大学 医療技術学部 臨床検査学科）

2. 臨床検査領域における AI 技術活用の可能性

大江 宏康（金沢大学附属病院 検査部）

D-4 看護セッション

コロナ禍に対応する新たな看護管理

日時：令和3年1月29日（金） 10:30～12:00

会場：D会場 webinar-D

オーガナイザー・座長：大北 美恵子（福井大学医学部附属病院 看護部）

座長：宗宮 昌子（岡山大学病院 看護部）

2020年度は、新型コロナウイルス感染症が全国に拡大し、日々刻々と変化する情勢の中で新たな看護管理対応が求められました。急増する患者対応のために、多くの大学病院で新型コロナウイルス感染症患者を受け入れました。重症患者や軽症患者の受け入れ、PCR検査対応など、未経験の新たな課題に対してスピーディな対応が求められました。看護師は、自分が感染するかも知れない不安、感染したら家族にうつしてしまうかも知れない不安、院内感染やクラスター発生の不安を抱えながら看護をしています。このような中で看護管理者として、患者対応は勿論、物品の確保、感染予防対策に加えて、患者対応する看護師の選出など看護体制の整備に迫られました。また、3密を避けるために集合研修や採用面接の工夫にも迫られました。

本セッションでは、新型コロナウイルス感染症に対する各施設の様々な取り組みや課題について情報共有し、今後の看護管理に活かせるよう考えていきたいと思えます。

1. 外来トリアージの体制作り ～外来看護の提供の維持を目指した効率的な人材活用～
関野 浩江（岡山大学病院 看護部 外来Ⅰ）
2. コロナ禍における大学病院の役割と感染症患者の受け入れ体制
三日市 麻紀子（富山大学附属病院 看護部）
3. 新型コロナ感染症の入院患者対応と ICT
五十嵐 行江（福井大学医学部附属病院 看護部）
4. Web 活用による新規採用者面接
江藤 由美（三重大学医学部附属病院 看護部）

共催セミナー1

アライドテレシス株式会社

日時：令和3年1月28日（木） 12:20～13:20

会場：B会場 webinar-B

座長：上野 哲史（アライドテレシス株式会社 マーケティングコミュニケーション部）

1. 仮想化・IoT の活用とネットワークインフラを考える
山下 芳範（福井大学医学部附属病院 医療情報部）

福井大学病院では15年前より、医療情報システムの仮想化やIoT活用の取り組みを行ってきた。既に、医療情報システムは端末も含めての完全な仮想化となり、IoTを利用したシステムの構築も行ってきた。

仮想化は、セキュリティの向上だけでなくネットワークの利用にも大きな変化を与えてきた。

これらの経験から、仮想化による効果だけでなく、仮想化によるICT利用の変化について紹介するとともに、ネットワークインフラは重要な役割を果たしており、福井大学病院では「いつでも、どこでも、何でも」といったアプローチをどのように構築しているかを紹介する。また、医療機関での電波監理が求められる中で、IoTを含む無線ネットワークの構築から今後の医療機関での無線利用や技術的課題についても紹介する。

2. IoT の利活用で広がる無線 LAN ～Wi-Fi6 の高速化・安定性～

福田 香奈絵（アライドテレシス株式会社 ソリューションエンジニアリング本部
東日本プロジェクトマネジメント部）

ニューノーマル時代を迎えた今、医療業界におけるデジタル化は益々推進されています。オンライン診療や遠隔医療の提供をはじめ、医療現場におけるIoTの利活用は感染症対策や災害時の医療活動を支えるほか、スタッフの業務効率化や負荷軽減にも期待が寄せられています。そこで様々なIoTの利活用には院内のどこでも繋がる高速かつ安定した無線LANは欠かせません。本セッション

ンでは最新技術の Wi-Fi6 にも触れつつ、快適な無線 LAN 構築のポイントや IoT の活用例についてご紹介いたします。

共催セミナー2

株式会社イードクトル

医療情報システムでの共通認証基盤とスマート医療機器インターフェースの共通化

日時：令和3年1月28日（木） 16:00～17:00

会場：B会場 webinar-B

座長：古川 泰弘（株式会社イードクトル）

演者：山下 芳範（福井大学医学部附属病院 医療情報部）

福井大学病院では、医療情報システムの仮想化や IoT 活用の取り組みを行ってきた。複数のシステムの仮想化だけでなく、部門システムや既存医療系システムとの利用者連携を円滑に行うために、多要素認証への対応を含めた利用者認証の統合化を行ってきた。本院では、仮想化やクラウド利用を行っており、また、モバイルの活用も広げていることから、単なるアプリケーションログインではなく、外部サービス等の標準的な連携やモバイル運用を考慮した多要素多経路認証への対応を求めた。また、同時にデジタル運用としての PKI についても共通認証基盤の要素としている現状を紹介する。

IoT の活用として、通信機能付きのスマート医療機器やバイタル機器の運用も仮想化と同様に進めてきたが、機器毎のインターフェース作成となると将来的な発展が見込めないため、各種機器と電子カルテやナースコールとの連携インターフェースを標準化し、さらにデータだけでなくイベント情報が扱えるような方法を採用している。各種機器の共通化や活用をどのように行っているかを紹介する。

共催セミナー3

フォーティネットジャパン株式会社

次期群馬大学医学部附属病院ネットワークデザインの紹介とフォーティネット SecureSD-Branch のご紹介

日時：令和3年1月29日（金） 12:00～13:00

会場：A会場 webinar-A

座長：高橋 士郎（フォーティネットジャパン株式会社）

1. NOC と SOC の統合／効率的なネットワーク・セキュリティ対策の紹介

高橋 士郎（フォーティネットジャパン株式会社）

昨今、巧妙化する脅威と、変化する IT 環境に対処するために、防御だけでなく、可視化や制御といった側面も含めたセキュリティを、初めからシステムやネットワークに組み込んでいくことが重要になってきていますが、実現はなかなか難しいかと思えます。

導入時期や担当したシステムインテグレーターによってベンダーや製品の選定が異なるため、自然とマルチベンダー環境が出来上がってしまう。

サーバとネットワーク、セキュリティはそれぞれの担当者があるといった具合に、ネットワークをはじめとする IT インフラの各要素が、別々の組織で運用されていることは珍しくない状況かと思えます。

その結果、運用管理が非効率だったり、台帳にまとめられた机上の情報と実際の環境に食い違いが生じたりします。こういった「縦割り型」の運用を見直し、これまで別々に組織されてきた NOC と SOC を融合させた、安定運用のお力添えができるソリューションのご紹介致します。

2. ライブストリーミング/Local 5G 拡張に対応する次期群大ネットワークデザインの紹介

鳥飼 幸太（群馬大学医学部附属病院 システム統合センター）

2019 年以前と 2020 年以後の無線ネットワークにおける劇的な変化に Web カメラを活用したライブストリーミングに代表されるアップロード負荷の増大が挙げられる。さらに近年の Office365/Google Workspace を一例とする、逐次同期を求める Web ミラーアプリケーションではレイテンシが処理速度に直結する。これは政府が推進する Local5G の要請と共通したインフラ設計が不可欠であることを示している。

本発表では 2015 年導入時性能の 20 倍超にあたる“Over 1Gbps”アクセスポイントに対する多数デバイスの同時接続時における通信速度測定を実機を用いて検証した結果を報告し、新規格の有用性について考察する。併せて、既存インフラでの運用課題を踏まえた次期群大ネットワークデザインについて紹介する。

総会・閉会式

日時：令和 3 年 1 月 29 日（金） 15:00～16:50

会場：A 会場 webinar-A

関連会議

医療情報部長会

日時：令和 3 年 1 月 27 日（水） 15:00～17:00

会場：F 会場 Web 会議

UMIN 事務小委員会

日時：令和 3 年 1 月 28 日（木） 9:30～10:30

会場：F 会場 Web 会議

UMIN 薬剤小委員会

日時：令和 3 年 1 月 28 日（木） 13:30～14:30

会場：F 会場 Web 会議

UMIN 協議会・幹事会

日時：令和3年1月28日（木） 14:30～16:00

会場：F会場 Web会議

診療情報管理士連絡会

日時：令和3年1月29日（金） 13:00～14:30

会場：F会場 Web会議

UMIN 協議会・総会

日時：令和3年1月29日（金） 16:50～18:00

会場：A会場 webinar-A

ポスター発表（e-poster）

P-1 病院マネジメント（事務）

P-1-01 RPAを使用した通知業務の軽減の実際

～化学療法センターおよび患者支援センターでの利用

石田 雄哉（和歌山県立医科大学附属病院 医療情報部）

P-1-02 DPC 様式1を活用した兵庫県の医療提供状況の現状分析

～神戸大学医学部附属病院 情報分析推進室の取組～

國吉 徹也（神戸大学医学部附属病院 情報分析推進室）

P-1-03 在院日数適正化を踏まえた病棟削減（1フロア削減）について

岡本 佳子（京都大学医学部附属病院 経営管理課）

P-1-04 医療機器等設備更新計画と収支シミュレーション作成の取組み

～健全な経営を維持するために～

青池 正幸（福井大学 病院部 経営企画課）

P-1-05 会議・委員会等にかかる事務作業の効率化を目指して

布目 久夫（信州大学医学部附属病院 医療支援課 診療情報管理室）

P-1-06 DPC データを用いた一般病棟の重症度、医療・看護必要度Ⅱの国立大学病院間のベンチマークにおける注意点

奥村 純一（東京大学医学部附属病院 国立大学病院データベースセンター・経営戦略課）

P-1-07 2019年度国立大学病院における医療機器の共同調達事業実施報告

山口 拳史（東京大学医学部附属病院）

P-1-08 令和2年度 HOMAS2 の取組みについて

西 隆興（東京大学医学部附属病院 経営戦略課）

P-1-09 外来患者アンケートにより見えた医療現場に求められるスマート化

～外来患者待ち時間削減に向けた取組み～

西澤 滉太郎（東京大学医学部附属病院 医療運営課）

P-2 病院情報システム

- P-2-01 医療機関コードの REDCap での活用
木島 真一（九州大学大学院医学研究院 循環器内科学）
- P-2-02 がんゲノムパネル検査運用体制の構築とその評価
～利用者である医師へのアンケートから垣間見る運用の課題～
古橋 寛子（九州大学病院 メディカル・インフォメーションセンター）
- P-2-03 電子カルテでの医薬品 GS-1 コードの活用
～手術薬剤の実施記録をターゲットに～
木下 善皓（京都大学医学部附属病院 経営管理課）
- P-2-04 情報漏洩・情報持出対策デバイスコントロールシステムの開発
～はたして、某有名システムにどれだけせまれるか！～
船田 徹（信州大学医学部附属病院 総合情報センター・医療情報部）
- P-2-05 異常検査値を医師に伝える試み
後沢 友麻（東北大学病院 メディカル IT センター）
- P-2-06 RFID タグを 2 つ用いた試薬在庫管理システムの構築について
河村 徳之（大阪医科大学病院 病院医療情報システム課）
- P-2-07 外来患者呼び出しシステムの利用状況について
～新型コロナウイルス感染症対策中の利用調査～
大場 浩明（秋田大学医学部附属病院 医事課医療情報室）
- P-2-08 重大診断情報伝達漏れ防止システムの有用性の検討
谷 祐児（旭川医科大学病院 経営企画部）
- P-2-09 病院情報システム・画像情報システムのハードの分離統合入札
～病院情報システム・画像情報システムのコストベネフィットの将来戦略～
近藤 博史（鳥取大学医学部附属病院 医療情報部）

P-3 診療情報管理

- P-3-01 外来放射線治療におけるタブレット問診システムの導入
園部 真也（東北大学病院 AI Lab）
- P-3-02 診療録記載の充実に向けた監査の取り組み ～特定共同指導を受審して～
池田 忍り子（福井大学医学部附属病院 診療情報管理部）

P-4 看護

- P-4-01 ICU 部門システムから基幹システムへの移行
西田 菜都子（京都大学医学部附属病院 看護部管理室）
- P-4-02 入退院支援への理解促進への取り組み
～病棟看護師を対象とした入退院支援研修～
鈴木 樹美（東京大学医学部附属病院 地域医療連携センター）
- P-4-03 Web 会議導入における看護管理者への支援の実際

～ICT リテラシー向上を目指して～

村岡 亜紀 (東京大学医学部附属病院 看護部)

P-4-04 認知症ケアチーム介入患者の行動制限の推移

～「身体拘束スコアシート」活用の結果から～

岩本 恵利子 (秋田大学医学部附属病院 看護部)

P-4-05 携帯端末による患者認証の実施状況

～採血時の認証状況から周知方法を考える～

小松 千賀子 (秋田大学医学部附属病院 看護部)

P-4-06 患者が見える看護サマリを目指した取り組み

～転院前看護サマリ監査と情報共有シートの活用～

長井 健士朗 (秋田大学医学部附属病院 第一病棟 7階)

P-4-07 オンライン会議システム (Zoom) による育児休業から職場復帰する看護師への相談会
「パパママ Ns カフェ」の効果

浦井 真友美 (福井大学医学部附属病院 看護部)

P-4-08 術前訪問スクリーニングの導入による術前検査支援部との連携

朝倉 佑介 (福井大学医学部附属病院 看護部・手術部)

P-4-09 入退院支援における患者と家族の思いの情報共有

～患者と家族の思いの記録を振り返って～

久保 博子 (福井大学医学部附属病院 患者総合支援センター 地域医療連携部)

P-4-10 e-learning を利用した重症度、医療・看護必要度院内研修

～with コロナ時代の院内研修のあり方を考える～

宇野 恵子 (福井大学医学部附属病院 看護部)

P-5 薬剤

P-5-01 仮想化コンテナ技術を利用した医薬品情報 Server の構築

～クラウドネットワーク内から最新情報を得る～

古角 幸太 (大阪大学医学部附属病院 薬剤部)

P-5-02 DWH とユーザーメイドシステムの効率的な連携

～DWH 抽出データを電文として業務利用する～

本多 立 (三重大学医学部附属病院 薬剤部・医療情報管理部)

P-6 放射線・医用画像

P-6-01 iPlanNET がもたらした手術支援の効率化

山内 貴寛 (福井大学医学部附属病院 脳脊髄神経外科)

P-7 検査

P-7-01 検体検査項目に対する査定ルールの一貫性に関する検証

岡本 和也 (京都大学医学部附属病院 医療情報企画部)

P-8 地域連携

- P-8-01 あじさいネット TV 会議システムを利用した退院時共同指導の評価
本村 美奈（長崎大学病院 総合患者支援部 地域医療連携センター）
- P-8-02 入退院支援加算 1 算定率向上に向けた取り組みとその効果
山口 真美（長崎大学病院 総合患者支援部 地域医療連携センター）
- P-8-03 テキストマイニングによる退院支援業務記録分析の試み
川崎 浩二（長崎大学病院 総合患者支援部 地域医療連携センター）
- P-8-04 地域包括ケアにおける看看連携を効果的にするための情報
～地域との患者の希望・目標を共有するための基盤づくり～
芝橋 秀宏（徳島大学病院 看護部）

P-9 臨床研究・治験

- P-9-01 INDICE クラウド
～UMIN が提供する無料、簡便、安心なクラウド型 EDC～
木内 貴弘（東京大学医学部附属病院 UMIN センター）
- P-9-02 国立大学病院資料（診療・組織）調査における臨床研究項目の回答の難しさの評価
城田 莉奈（東京大学医学部附属病院 国立大学病院データベースセンター）
- P-9-03 ビッグデータ解析による生体情報の特性分析
～解剖学的検証～
清水 康弘（福井大学医学部附属病院 医療情報部）

P-10 COVID-19 対応

- P-10-01 集合形式講習会からオンデマンド講習会へ
～3密を回避し3無茶（現有機器で安価かつ短期間）を実現せよ！（その1）～
船田 徹（信州大学医学部附属病院 総合情報センター・医療情報部）
- P-10-02 ボイスチャットを利用したオンラインカンファレンスへ
～3密を回避し3無茶（現有機器で安価かつ短期間）を実現せよ！（その2）～
船田 徹（信州大学医学部附属病院 総合情報センター・医療情報部）
- P-10-03 オンラインクロノロシステムの開発と運用
～COVID-19 におけるオンライン感染症対策～
安徳 恭彰（大分大学医学部附属病院 医療情報部）
- P-10-04 診療カンファレンス用 WEB 会議システムの導入と評価
～3密を避けたカンファレンス開催のために～
朝田 委津子（名古屋大学医学部附属病院 メディカル IT センター）
- P-10-05 COVID-19 の院内感染対策の取り組み
～情報システムの活用～
清水 康弘（福井大学医学部附属病院 医療情報部）